

# 学校だより

## 学校を「つくる」。創造する力が、自分を育てる。

修学旅行からはじまり、宿泊学習、校外学習と各学年の旅行的行事が無事に終了しました。それぞれの学年・クラスが、いい雰囲気の中、令和元年度が進行しています。今月は、3年生の運動部の生徒にとって、3年間の総決算である最後の学総大会があります。やってよかったと思える大会となるよう、万全なる準備をして臨んでください。また保護者の皆様方には、生徒たちにあたたかいエールを送っていただけたらと思います。

さて、以前、拝読した教育雑誌に、「学校」は「ある」ものでなく、「つくる」ものという言葉が印象に残りました。今、学校に求められている使命は、10年後の社会のニーズに応えることが出来て、活躍できる人材を育てることではないでしょうか。学校は、「ある」ものではなく、社会の変化を先取りしながら「つくる」ものでなければ、10年後に活躍する人材は育ちません。言わば、生徒も教師も保護者も与えられたものをこなすだけでなく、それぞれの立場で主体的に「つくる」ことが求められています。そして、先行き起こるだろうという事象を「想像」し、その対処すべき事柄を「創造」する、クリエイティブな力が求められているのです。

本校では、昨年度より、情報化社会を生き抜く力を育てることをねらいとして、スマホ等の使用について(情報リテラシー)、生徒会や道徳教育等を通じて、実践することとなりました。この取り組みは、まさに社会の変化を先取りする「つくる」という行為です。

かつて、開校当時「入間野中を考える会」という全校討論の集会がありました。「冬の防寒着はどうあるべきか」「通学カバンを見直そう」など、生徒たちが与えられたものだけでなく、自分たちで、課題を提案し、議論し、約束事を決めました。これも主体である生徒が自ら自分の学校を「つくる」ということです。自分たちがつくることは、みんなが大切にします。なぜなら、自分たちのものだからです。今回、取り組む「情報リテラシー」スマホの使い方を考える会も、自分たちの手で課題を改善できるように話し合ったり、呼びかけ合ったりし、危機管理の力を高めることを主眼としています。ここでの経験が、将来、社会に出た時に、賢く情報化社会を生き抜き、正しい判断力を備えた大人になるのだと思います。



こうした「つくる」という行為こそ、社会で生きて働く力であり、自らが課題を克服する力を備えることも学力だと思うのですが。みなさんはどう考えるでしょうか。